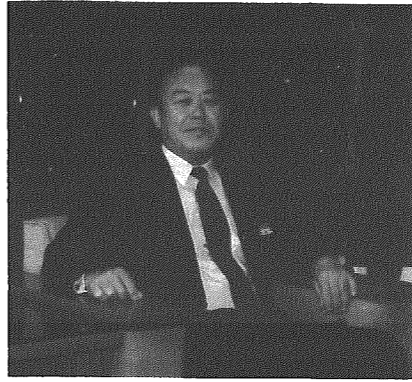


新年 町長インタビュー

町長年頭の挨拶

新年、あけましておめでとう
 ございます。町民のみなさまの
 ご多幸、ご繁栄を心からお祈り
 申し上げます。

丑年を迎えました。牛にちな
 んだ言葉が昔から多くあります
 が、その中でも「牛に引かれて
 善光寺参り」だともよろしいん
 ですが「牛糞む許々の暗がり」と
 言った方がまさに現世を表して
 いる感じがします。政治や経済、
 社会の不透明な時代から脱却を
 しなければなりません。それに
 は、地方の時代にふさわしい地
 方分権の実現であります。そし
 て、町民本位の自主的、創造的
 な施策を展開できるよう、行財
 政基盤の確立、強化を図り新し



い地域づくり対策をはじめ、特
 に保健福祉、農業、商工業の推
 進、更に教育、文化の振興を積
 極的に進めて参る所存でありま
 す。

年頭にあたり次の四項目につ
 いて、町長にインタビューをし
 ましたので紹介いたします。

町制後のまちづくりについてお
 聞きます。

昨年、十一月一日に新生横越
 町が誕生しました。約一世紀に
 わたる輝かしい歴史と文化、伝
 統を築き、その礎の下に町制が
 施行されました。まさに二十一
 世紀を展望した画期的なことで
 あり、本町の歴史に特筆される
 大きな意義を持つものと確信い
 たしております。

しかし、村から町に変わって
 も従来のまちづくりの基本精神
 である「豊かで潤いのある、住
 んでいてよかつたと思う、だれ
 もが住みたくなる魅力あるまち
 づくり」の考え方は、今後も引
 き継ぎ、町民の幸福、地域の繁
 栄を永遠のテーマとして取り組
 んでいかなければなりません。
 その取り組みべき手段の一つと
 して、若者が定住する地域社会

を構築する必要があります。こ
 れからの町を背負い、県土や国
 を動かすのは、若い世代の漲る
 行動力や想像力等にかかってお
 り、若い力は横越町の財産とな
 りうるからです。

また、魅力あるまちにするに
 は、産、学、住、遊が重要なポ
 イントだと思います。即ち「は
 たらく拠点性」、「まなぶ拠点
 性」、「すむ拠点性」、「たの
 しみ拠点性」であります。これ
 らの推進・展開は、「よこし
 ならでは」のユニークなものが
 望まれます。それには、多くの
 住民参加と知恵の結集が必要で
 あります。

当面の主要課題の福祉について
 お聞きます。

少子、高齢化時代を迎える中
 で、豊かな福祉社会への構築を
 図り、子供からお年寄りが、安
 心して暮らせる町づくりをする
 ことです。それは、福祉と生涯
 学習の町です。核家族化等の進
 行、女性の職場進出などにも
 ない家庭における、保育機能や
 介護機能が低下してきておりま
 す。このためにも地域、住民の
 ニーズに対応した諸制度を充実
 しなければならぬと考えてお
 ります。

とりわけ、町の保健センター
 と介護支援を含む施設を建設中
 であります。又、将来の高齢者

福祉対策として、広域的な視点
 に立って焼山地区に三・三ヘク
 タールの用地を確保して民間に
 よる老人保健施設の開設と併せ、
 町としては、特別擁護老人ホー
 ム、ショートステイ、デイサー
 ビスセンター、ケアハウスなど
 を計画いたしており、その受け
 入れ体制を整備するものであり
 ます。

国際交流は当然のことであり、
 永遠の平和を求めております。
 「井の中の蛙、大海を知らず」
 と言言葉がありますが、ひと
 りよがりでは、広く社会、世界
 を知る事が出来ず外から見た自
 分、外から見た自国、異国文化
 との触れ合いによって新しい視
 点を見出すことが出来ると思
 います。

今後の財政の見通しについてお
 聞きます。

一口に言って、国も地方も大
 変厳しい財政環境にあります。
 今おかれている町財政は、自
 主財源が乏しい中、高齢者対策
 等、地域福祉の充実、生活関連
 施設の整備、又、厳しい条件下
 である農業問題、中小企業対策
 など、各種総合的に推進する大
 きな役割と責任が課せられてお
 ります。よって、町政運営には
 財政強化を図り、少ない経費で

町民のために、最大の効果を発
 揮出来るように全力を傾けて参
 る所存であります。

町民のみなさまのご理解、ご
 協力をお願い申し上げますので
 あります。

「厚志に感謝

町に、次の方々より社会福祉
 事業に役立ててくださいと寄付
 がありました。

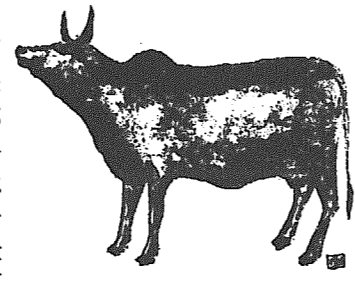
十月十六日に亡くなられた今
 井マツイさんのご遺族今井源吾
 様から香典返しとして二十万円。
 亀田郷みなみ農協横越支所女
 性部より、農業まつりでの不用
 品の益金として三万四千七十円。
 ご厚志に感謝いたします。

町の最高齢者である小杉の今
 井ムメ(側)さんが、十二月
 十二日ご逝去されました。
 ご冥福をお祈り申し上げます。

重複受診はやめましょう

同じ病気で複数の医療機関に
 かかる人がいますが、これは医
 療費の増加をまねくばかりでな
 く、同じような薬をもらって飲
 むと身体に悪影響を及ぼす場合
 もありますので、何か気になる
 ことがあれば、かかりつけのお
 医者さんには相談しましよ
 う。(住民課老人医療係)

今年 は 丑年



今年 は 丑年。牛は、十二支の
 二番目、偶てい目反すう類ウシ
 科の動物です。胃が四つあって
 反すうすることはよく知られて
 います。

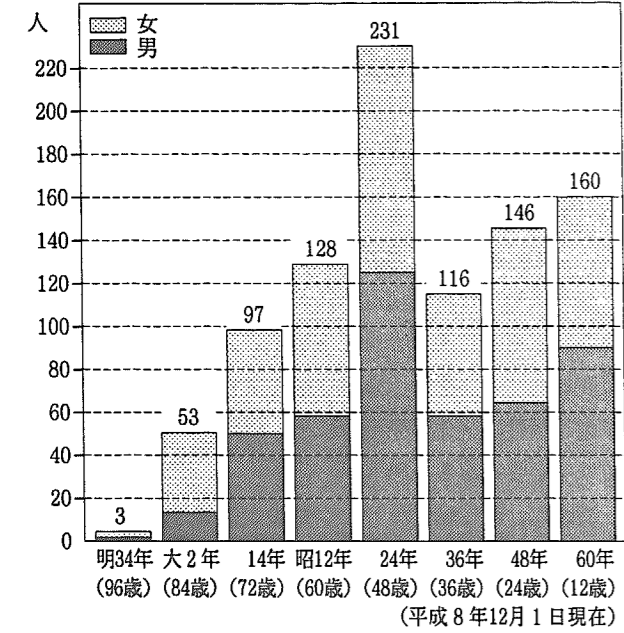
家畜としての牛には役牛、肉
 牛、乳牛などがいます。日本で
 も戦前は、農耕や運搬などに盛
 んに役牛が活躍していましたが、
 最近では、そうした風景はあま
 り見かけなくなりました。家畜
 以外の牛には野牛、水牛などが
 います。牛が家畜として飼われ
 たのは、新石器時代あたりが起
 源といわれています。日本でも
 縄文時代に牛が飼われていたと
 いう説があります。牛車は平安
 貴族の乗り物で、今も難まつり
 の難段に飾られています。
 わたしたちが牛と聞いてイメー
 ジするのは、牧場の風景によく
 似合う白と黒の乳牛ホルスタイ

人との付き合いが長い牛は、
 ことわざにもよく登場します。
 「食事をすく寝ると牛になる」
 ではないでしょうか。昔は行儀
 の悪い子をしかるときに親がよ
 くこの言葉を使っていたもので
 す。でも、最近では、食後にあわて
 動くよりも、寝ころんだほうが
 消化にもよいといわれ、この言
 葉はあまり聞かれなくなりました。

丑年の主な出来事

- 明治34年(一九〇一)
 ・ 11月1日 横越・沢海・木津・
 二本木・小杉の五カ村が合村
 「横越村」としてスタート
- 大正2年(一九一三)
 ・ 木津水戸口破堤、近郷一帯泥
 海と化す(8月28日)
- 大正14年(一九二五)

町の丑年生まれの人口



12月例会

平成七年度 一般会計・特別会計決算認定
 消防業務を常備化

- 町制初の横越町議会十二月定例会が、十日から十八日までの九日間の会期で開催されました。初日には、一般質問に四名の議員が、新生横越町の将来の在り方や福祉計画などについて浅見町長に質したほか、期間中には、平成七年度一般会計や特別会計の決算が、決算審査特別委員会で審議され本会議で認定され、また、平成八年度補正予算や一般職の給与・手当等の条例案件も原案どおり可決されました。
- おきな議案
 - 横越町と亀田町との間における消防事務の委託規約を制定
 - 消防事務の管理及び執行を亀田町に平成九年四月二日より委託し常備化するもの。
 - 平成八年度一般会計補正予算
- 追加補正の主なものは、保健センター建設工事請負費一、五四〇万円、道路側溝補修工事・道路補修工事請負費三、七六七万七千円、地盤沈下対策事業負担金や泉アミニュティ集落支援事業補助金などの負担金及び補助金五五三万五千円などです。
- 平成七年度一般会計決算の認定(詳細は別掲6から7ページを参照)
- 平成七年度国民健康保険を始め家畜診療所、下水道事業、老人保健特別会計をそれぞれ認定(詳細は広報2月号で掲載予定)
- 人権擁護委員の推薦
 - 岩橋光御(横越・70歳)
 - 小水光興(横越・68歳)
 の両名が決定されました。